

# あいち通信

第五十一号平成二十五年十一月  
日本会議 愛知県本部 事務局  
〇五二―七六三―四六七八

## 祝・日本会議愛知県本部十五周年迎える！

本年、日本会議愛知県本部は平成十年の設立より十五周年を迎える事となりました。この間、天皇陛下御即位十年奉祝運動・御即位二十年奉祝運動、国旗国歌法制定運動、教育基本法改正運動、女系容認皇室典範改正反対運動、夫婦別姓法案反対運動、外国人参政権付与法案反対運動、尖閣諸島を守る運動、女性宮家創設反対運動など、国家の根幹に関わる課題に取り組んで参りました。そして、今夏の参議院選挙では、いわゆる衆参のねじれが解消され、第二次安倍内閣は本格的保守政権として、教育改革や憲法改正など戦後レジームからの脱却を目指して諸政策を推進しようとしています。この機会にこれまでの国民運動の成果を踏まえて、長年の悲願である憲法改正運動をさらに推進して参りたいと存じます。

## 報告・名古屋東部支部、第一回勉強会、街宣実施！

この節目にあたり会員・支援者の皆様が親しく一堂に会し、「感謝の集い」を開催させていただきます。開催日、迫つてのご案内となりましたが、詳細につき、本紙、裏面をご覧いただき、是非、多くの方へお声かけいただきご参加くださいますようお願い申し上げます。



参加者の一部の写真

●参加者数 七名（うち一名、第一部のみの参加）  
●会場 野並コミュニティセンター  
●会費 五百円  
●テーマ 憲法改正の論点・・・象徴天皇と元首の違い・武力行使の解釈について・憲法無効論について・前文の歴史的義務・九条と武士道精神、暴力と武力の違い等、活発な意見交換が行われ初めての勉強会でした。有意義な時間を過ごすことができ、また見識を深める事にも役立ちました。憲法の問題を語るには時間が短く感じられ、気がつけば終了といった印象でした。

### 第二部 開催日時 同日、午後二時～午後四時

●会場 昭和区 御器所交差点南西角地  
●会費 無料  
●参加者数 七名（うち一名、第二部のみの参加）

### 街宣 目的 自主憲法制定・・・台風が近づきつ

つあり、不安定な天候でしたが、神風が吹いた如く、無事に実施できました。十代の若い方に声を掛けていただき、尖閣諸島から見る我が国の安全保障問題について意見交換をしたり、男性二人組の方に温かい声を掛けていただいたりなど人数は決して多くはなかったのですが、街行く方々との連帯を感じる事ができたひと時でした。（日本会議名古屋東部支部事務局長 加藤 貴之 記）

## 街宣での通行人の反応から 八十九歳の男性にチラシ配布

及び署名をお願いしたところ、典型的な左翼思想の持ち主であることが判り、街宣終了間際まで、小生及びスタッフと議論を交わす場面もありました。先方は、「尖閣・沖縄における中国の傍若無人ぶりに対し、日本が戦前彼らに対してやってきたことは、これの百倍もひどいことだ。尖閣のような無人島くらいはくれてやってもよいではないか。天皇の戦争責任は重い。君たちは陛下と呼ぶのか。自分は病弱であったので徴兵は免れ、こゝまで生きて来られたが、徴兵で戦死した者達に本当に気の毒だ、云々。」

## 案内・第三回名古屋東部支部定例会、街宣！

●開催日時 十一月十七日（日）午前九時～午前十一時四十五分  
●会場 野並コミュニティセンター二階第三会議室（名古屋市中天白区野並二一三九一・TEL 〇五二―八九五―一〇五）

## 第一回勉強会

●開催日時 同日、午後二時～午後四時  
●会場 緑区 名鉄鳴海駅ロータリー西交差点南東角地  
●街宣目的 「自主憲法制定」  
（名古屋東部支部長 江崎雅博（携帯）〇九〇・二六八九・六〇七五・記）

## 緊急案内・偏向報道を許さず！中日新聞を正す 国民大行動「名古屋」

●開催日時 十月二十七日（日） ●集合時間 午後一時（デモスタートは午後二時）  
●集合場所 第二号菜園（名古屋市中区東桜一丁目十三 NHKなど）や東桜小の南、オアシス21 県美術館・愛知芸術劇場の東  
●デモ前集会 午後一時～二時 ●デモ 午後二時～三時  
●デモ後集会 中日新聞本社前で抗議活動  
●問い合わせ先 〇七〇・五〇三一・八一六六（林）、〇七〇・五〇三一・九九二六（水野）  
●主催 頑張れ日本！全国行動委員会愛知県本部、中国への名城住宅跡地売却に反対する会  
●共催 日本世論の会愛知県支部、チャンネル桜を支援する会愛知県支部  
●協賛 日本会議愛知県本部

## 愛知県護国神社清掃奉仕予定

十一月は十一月三日午前八時開始、九時終了。引き続き十二月一日、一月五日を予定しております。重手必ずご持参下さい。また、小雨なら社屋の木枠拭き掃除をします。中を必ず持参下さい。大雨は中止になります。また、疑わしい天気の場合は、現場責任者の服部宛お電話（〇九〇・六四六六・一五九二）におかけ下さい。  
●「日本の息吹」を引き続き「購読」をお願いします。